

GMB株式会社

2014年3月期決算説明会資料

2014年5月21日・22日



(電動ウォーターポンプ)

証券コード 7214

<http://www.gmb.jp>

注) 本資料中、当社の業績等に関わる数値は、表示桁数未満切捨て記載しております。



. 2014年3月期実績

. 2015年3月期計画

. 今後の事業戦略

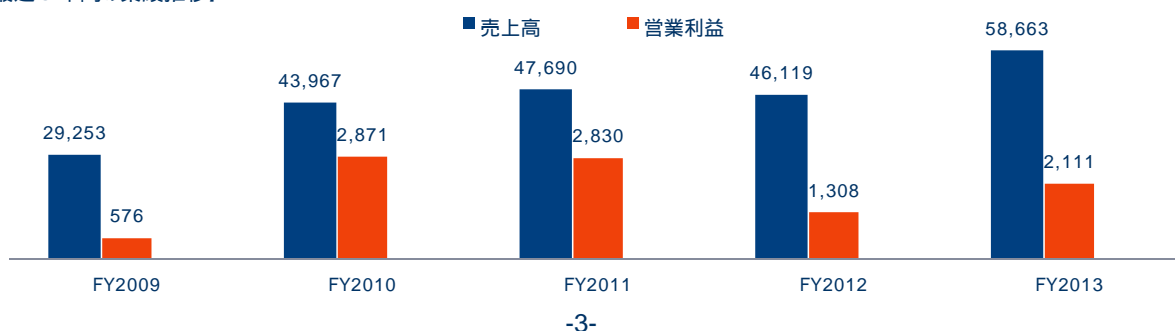
2014年3月期 損益実績



(単位: 百万円・%)

	FY2012		FY2013		前期比	
	金額(百万円)	(構成比)	金額(百万円)	(構成比)	差額	増減率(%)
売上高	46,119	(100.0%)	58,663	(100.0%)	+12,544	+27.2
売上総利益	7,195	(15.6%)	9,526	(16.2%)	+2,330	+32.4
営業利益	1,308	(2.8%)	2,111	(3.6%)	+803	+61.4
経常利益	1,483	(3.2%)	2,251	(3.8%)	+768	+51.8
純利益	416	(0.9%)	881	(1.5%)	+465	+111.7
EPS(円)	79.90	-	169.17	-	-	-

[最近5年間の業績推移]

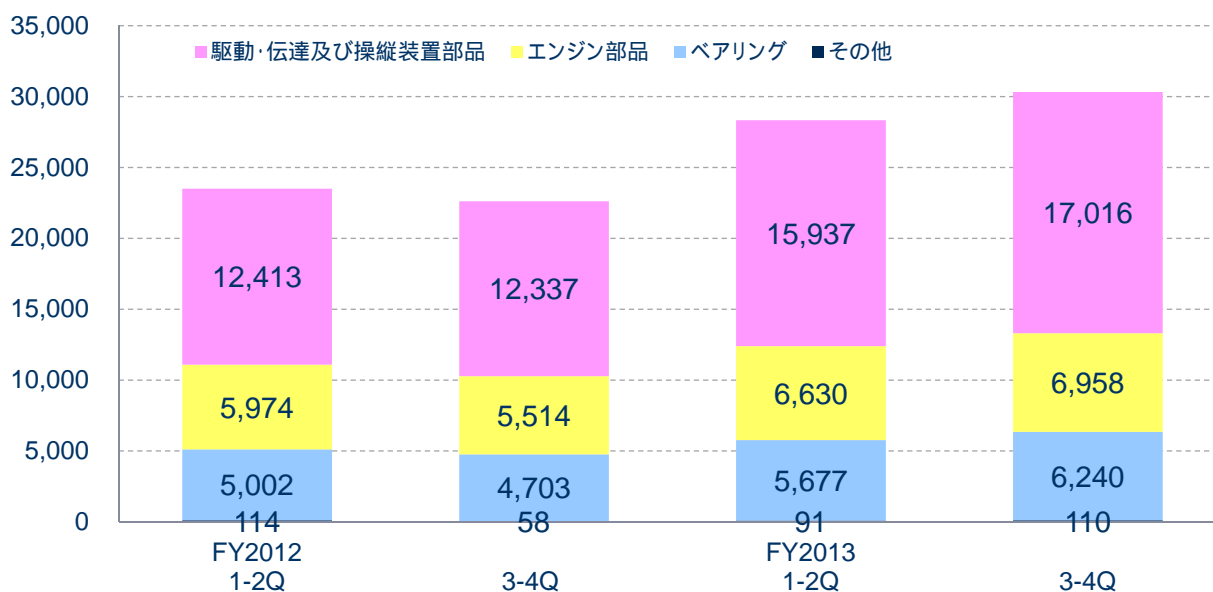


-3-

売上高の品目分類別実績推移 (半期毎)



(単位: 百万円)



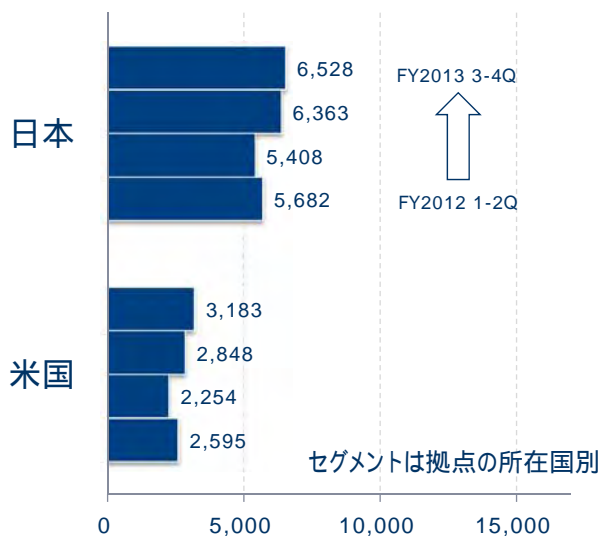
円安が輸出競争力の改善と海外子会社売上の円換算として増加に寄与。駆動系は韓国・中国での新車用のバルブスプール、ピニオンシャフト、等速ジョイントや欧州向けユニバーサルジョイントの販売が順調に推移。エンジン部品・ベアリングでは、東南アジア・米国・中東などの海外補修用市場で販売が回復。

-4-

セグメント実績推移 日本・米国（半期毎）

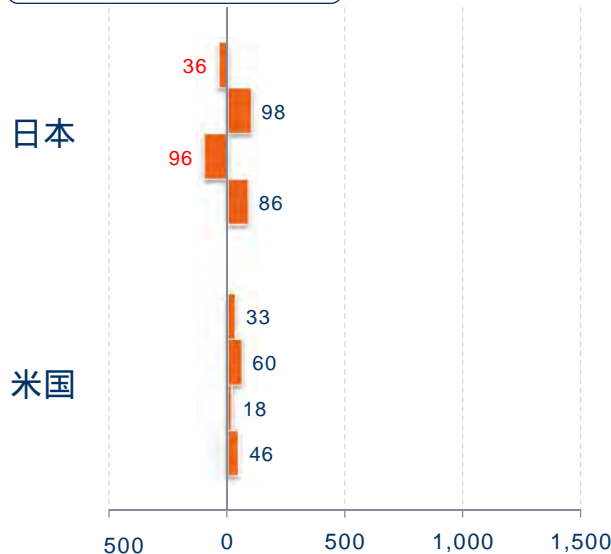


外部売上高



セグメント利益

(単位：百万円)

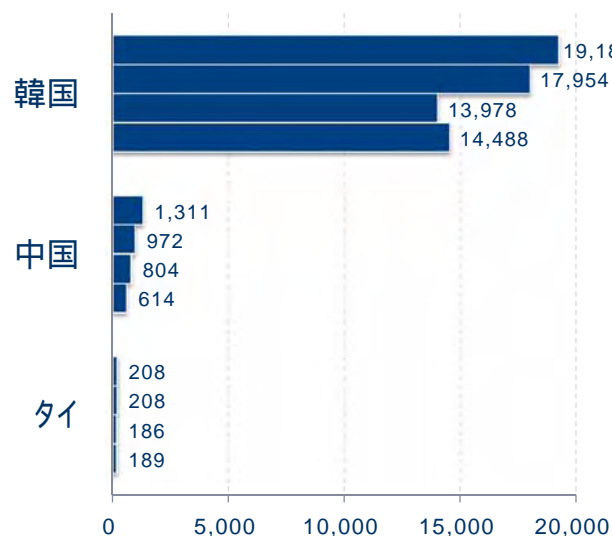


日本は、円安定化により、海外補修用部品と欧州向けユニバーサルジョイントの販売回復によって、利益改善するも、後半調達コストなどのコストアップを固定費圧縮で吸収できず、下期赤字へ。米国は、ウォーターポンプとテンショナー・アイドラー・ベアリングの販売回復により増収増益となったが、人件費等の経費増加により下期利益幅縮小。

セグメント実績推移 韓国・中国・タイ（半期毎）

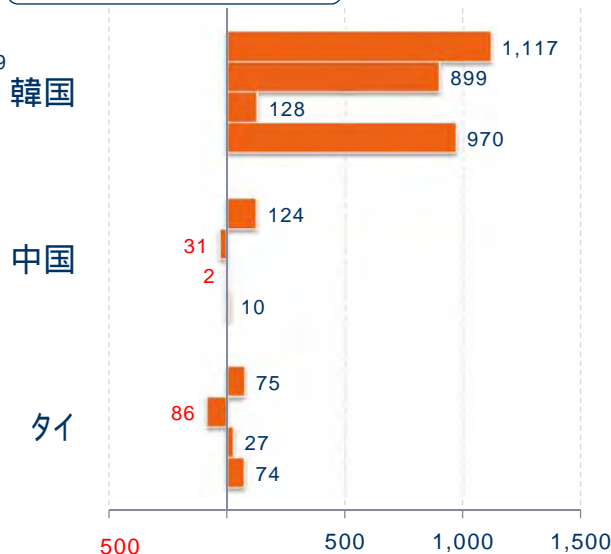


外部売上高



セグメント利益

(単位：百万円)

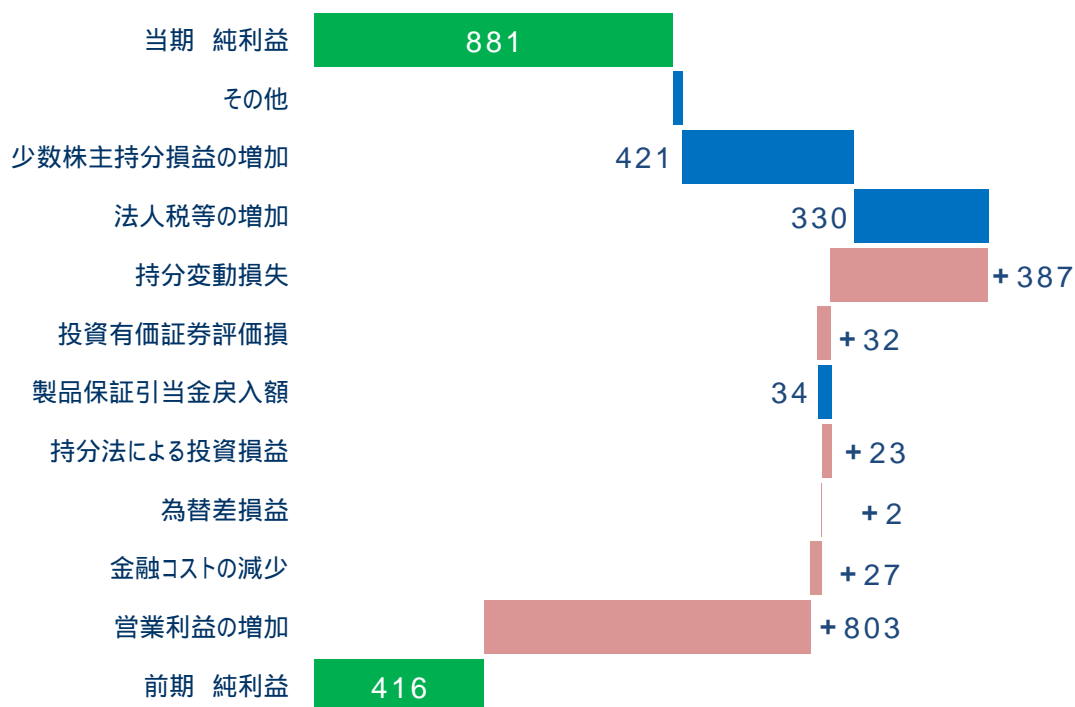


韓国は、引き続き新車用部品販売が順調に推移。売上増加とコスト削減により、増収増益となり、グループ業績を牽引。中国は、現地納入の新車用部品の販売増加するとともに、下期は一部の販売価格の改善により、黒字化。タイは、円安による輸出採算悪化の影響を受けるが、グループ向け製品の生産量回復と下期販売価格の改善により、黒字化。

営業利益以下の増減要因（通期）



（単位：百万円）



- 7 -

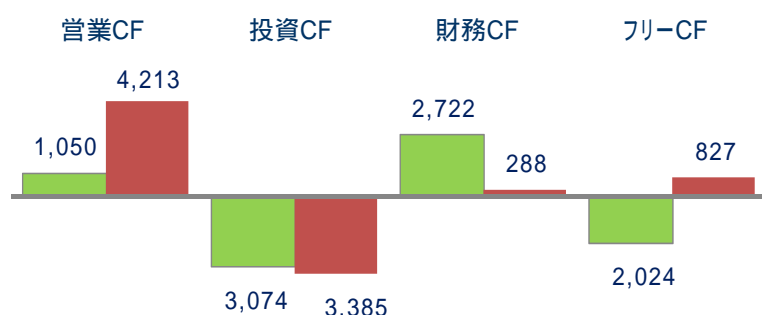
19 May 2014

キャッシュ・フローの実績（通期）



（単位：百万円）

	前期	当期	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	1,050	4,213	+ 3,162
投資活動によるキャッシュフロー	3,074	3,385	310
財務活動によるキャッシュフロー	2,722	288	2,433
フリーキャッシュフロー	2,024	827	+ 2,851



〔 当期の主な内訳 〕

営業CF	
税金等調整前利益	2,262 百万円
減価償却費	2,980
売上債権の増加	231
たな卸資産の増加	673
仕入債務の増加	860
為替差益	557
投資CF	
設備投資	3,484
韓国子会社株式取得	75
財務CF	
借入金の増加	798
配当金の支払額	208

- 8 -

19 May 2014

. 2014年3月期実績

. 2015年3月期計画

. 今後の事業戦略

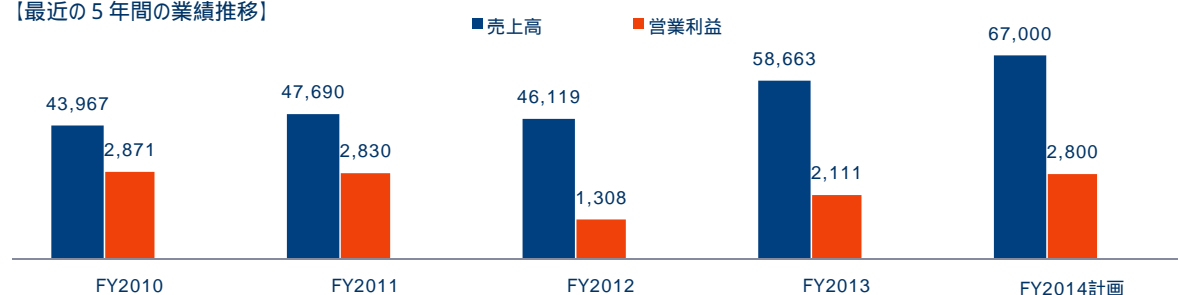
-9-

2015年3月期 損益計画

(単位:百万円・%)

	FY2013	FY2014				前期比
	(通期実績)	(1Q-2Q計画)	(3Q-4Q計画)	(通期計画)		
売上高	58,663 (100.0%)	32,500 (100.0%)	34,500 (100.0%)	67,000 (100.0%)	+14.2%	
営業利益	2,111 (3.6%)	1,300 (4.0%)	1,500 (4.3%)	2,800 (4.2%)	+32.6%	
経常利益	2,251 (3.8%)	1,070 (3.3%)	1,270 (3.7%)	2,340 (3.5%)	+3.9%	
当期純利益	881 (1.5%)	400 (1.2%)	600 (1.7%)	1,000 (1.5%)	+13.4%	
EPS (円)	169.17	76.75	-	191.89		

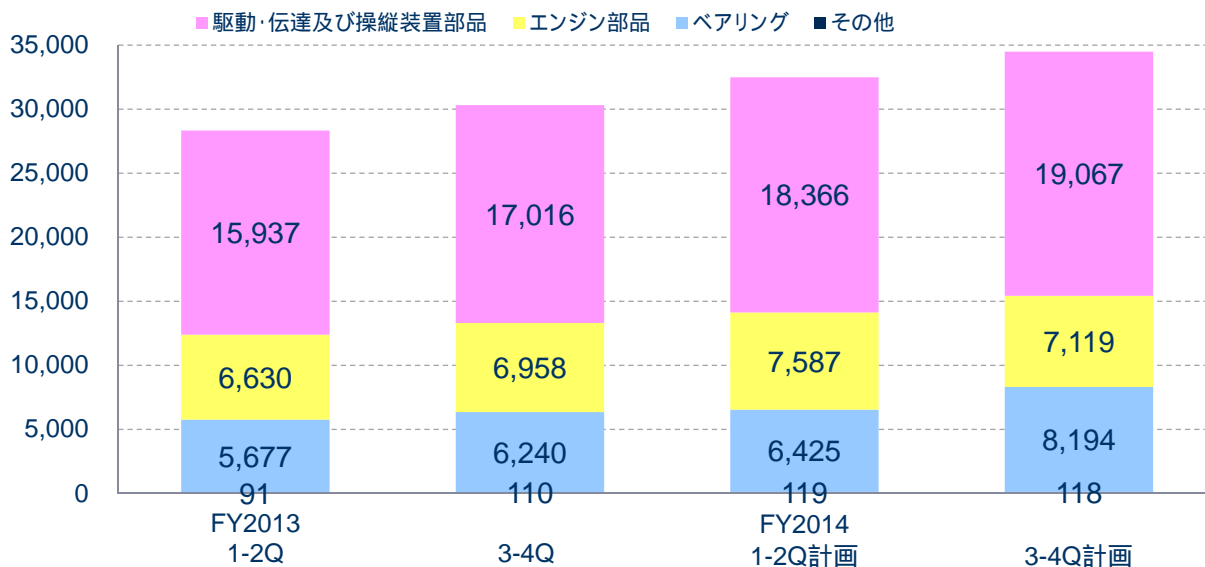
【最近の5年間の業績推移】



売上高の品目分類別計画（半期毎）



（単位：百万円）



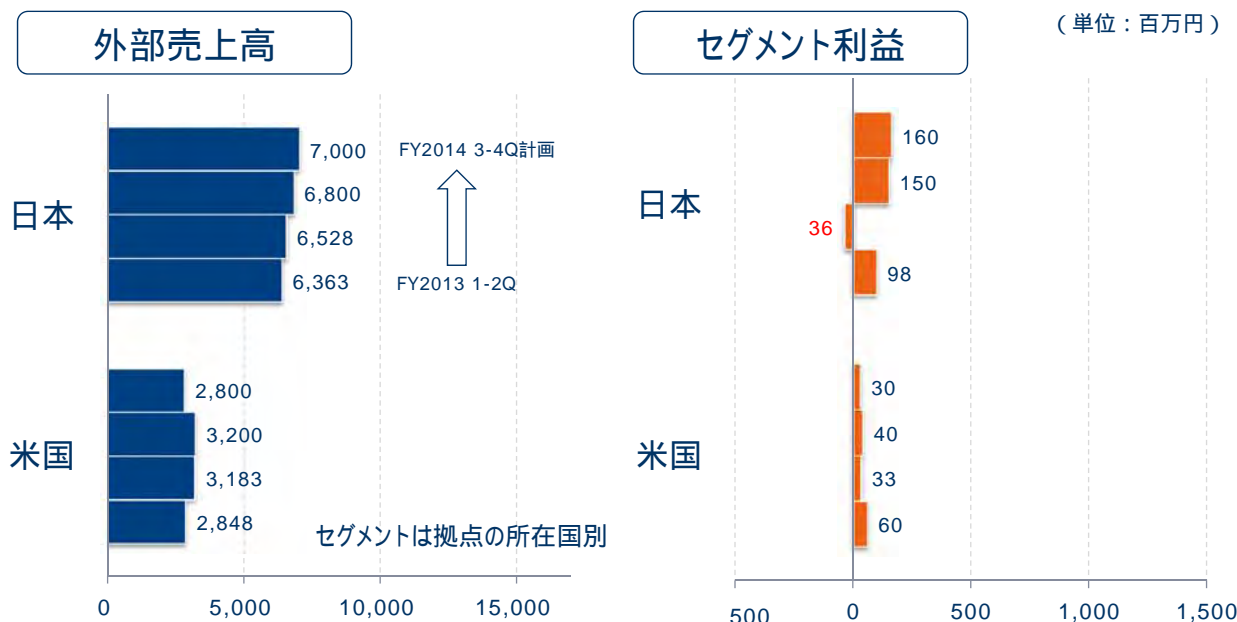
駆動系は韓国・中国での新車用バルブスプールや等速ジョイント、欧州向けユニバーサルジョイントが増加。エンジン部品は新車用では韓国商用車向けと中東・アジアなど海外補修用市場でのウォーターポンプの増加を見込む。ベアリングは、既存のテンショナー・アイドル・ベアリングの拡販に加え、ハブ・ベアリングなどの協力工場を活用した品揃えを強化することで補修用市場での販売増加を計画。

-11-

セグメント計画 日本・米国（半期毎）



（単位：百万円）

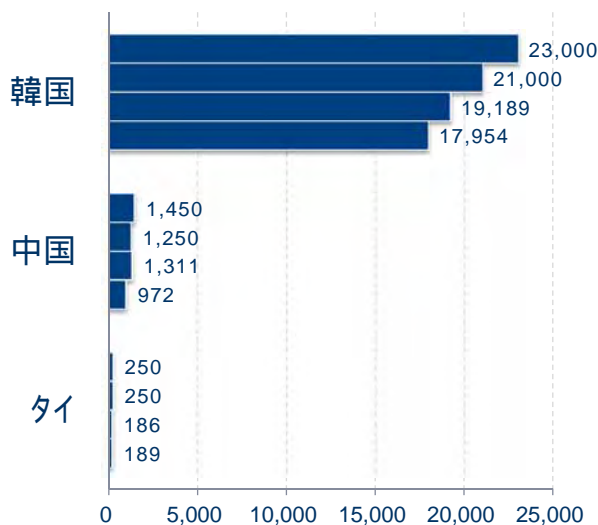


日本は、為替安定と取扱製品拡大による海外補修用市場向け輸出と欧州新車用ユニバーサルジョイントなどの販売増加を見込む。増収効果に加えて国内工場合理化などのコスト削減により利益改善を計画。米国は、後半大手顧客との取引縮小の影響を受けるも、調達コストと経費圧縮で利益確保を見込む。

セグメント計画 韓国・中国・タイ（半期毎）

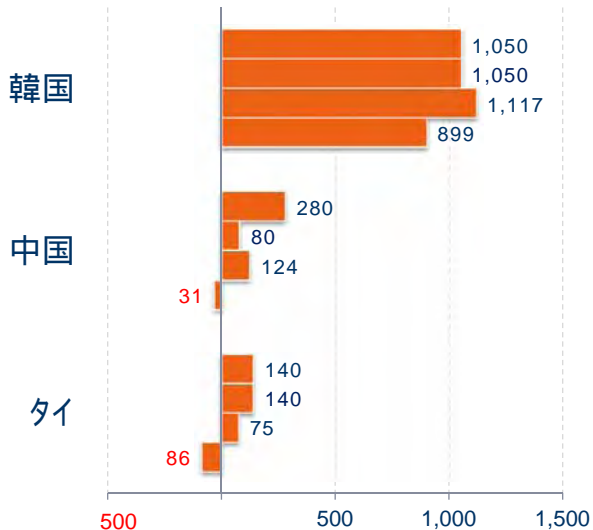


外部売上高



セグメント利益

(単位：百万円)



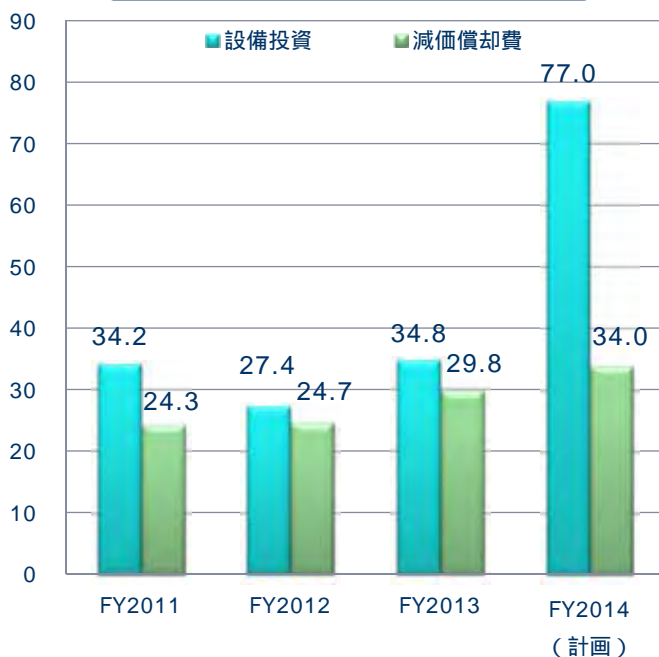
韓国は、韓国・中国でのバルブスプールや等速ジョイントなど新車部品販売が順調に推移することに加え、ベアリング製品の海外補修用市場への拡販を進める。売上増加に対して、人件費や償却費増加の影響もあり前期並みの利益を見込む。中国・タイの生産拠点はグループ販売増加による増産効果と販売価格の改善に加えて、品質改善と生産効率化を進めコスト削減を図ることで、利益改善を計画。

設備投資・減価償却費



(単位：億円)

設備投資・減価償却費の推移



FY2014 設備投資計画の内訳

	投資額	主な内容
日本	8.0	維持・合理化
韓国	33.0	工場増築・増産対応 新規開発・更新 等
中国	26.0	増産・合理化対応 工場新設
タイ	2.5	生産移管対応
欧州	7.5	ロシア、ルーマニア工場新設
計	77.0	

. 2014年3月期実績

. 2015年3月期計画

. 今後の事業戦略

-15-

設備投資を積極化



バルブスプール増産対応

- 韓国・中国工場拡張
- 中国現地納入に本格的な対応開始



中国新工場立ち上げ

- ベアリング製品の韓国系メーカーへの納入スタート
- 欧米系・日系の部品メーカーへの現地供給ニーズに対応



ロシア・ルーマニア進出

- 初の欧州生産拠点として、2015年春の量産稼働を目指す
- ロシア工場では新製品オイルポンプも生産



青島吉明美汽車配件有限公司

量的競争力強化を狙うアイテム

■ 技術と価格のバランスで販売を拡大



ウォーターポンプ



パルススプール



等速ジョイント



ユニバーサルジョイント



テンショナー・アイドラー
・ベアリング

技術的な取組の方向性

■ 電動ウォーターポンプの販路拡大

- ・ 欧米・日系メーカーへの販路拡大へ向け日韓協力した技術営業強化

■ 燃費改善・環境対応を軸とした新製品開発

- ・ 「冷却」・「変速機」・「排ガス」に着目した新製品開発に着手

補修用部品市場への対応

■ 取扱アイテムの品揃えを拡大

■ G M B ブランドの強化

■ 品質優位を目指す大手顧客との共同ビジネス



タイミングベルトキット

- 将来予想に関連する記述については、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
- 予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- 本資料および当社IRに関連するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

<お問い合わせ先>
GMB株式会社 経営管理室
電話 : 0745-44-1912
Email : ir@gmb.jp

GMB 株式会社

事業内容説明資料

(2014年3月期)

(証券コード : 7214)

<http://www.gmb.jp/>

注) 本資料中、当社の業績等に関わる数値は、表示桁数未満で切捨して記載しております。



目 次

	ページ
GMBの概要	2
GMBの主要取扱製品	4
生産・販売ともにグローバルに展開	5
GMBの特徴	8



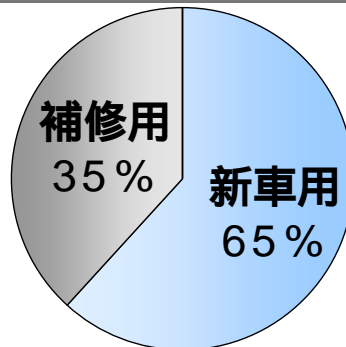
GMBグループの概要

商 号	: GMB株式会社	売 上 高	: 58,663 百万円 (単体 16,805 百万円)
創 業	: 1943年(昭和18年)	営 業 利 益	: 2,111 百万円 (単体 99 百万円)
代表取締役会長	: 松岡 信夫	総 資 産	: 58,514 百万円 (単体 23,497 百万円)
代表取締役社長	: 阪口 有一	純 資 産	: 28,284 百万円 (単体 14,073 百万円)
所 在 地	: 奈良県磯城郡川西町大字吐田150番地3		
事 業 内 容	: ユニバーサルジョイント、ウォーターポンプなどの自動車部品製造・販売		
グ ル ー プ 会 社	: 9社 / 韓国2社(4工場)、米国1社(2拠点)、中国4社(3工場・1拠点)、タイ2社(2工場)		
従 業 員	: 2,707名 (単体 367名)		

日韓GMBを主体に補修用部品と新車用部品に取組む独立系自動車部品メーカー



補修用部品主体



新車用部品主体



GMBグループの概要

青島吉明美機械
制造有限公司
(中国)

青島吉明美汽車
配件有限公司
(中国)

GMB KOREA CORP. (韓国)

GMB NORTH AMERICA
INC. (米国)

吉明美汽配(南通)有限公司(中国)

吉明美(杭州)汽配有限公司(中国)

AG TECH CORP.
(韓国)

THAI GMB INDUSTRY
CO.,LTD. (タイ)

THAI KYOWA GMB
CO.,LTD. (タイ)

GMB
(奈良・大阪)

1943 (昭和 18) 年	: 大阪市生野区で「松岡精工所」創業
1958 (昭和 33) 年	: ユニバーサルジョイントの輸出開始
1962 (昭和 37) 年	: 株式会社浪速精密工業所設立
1976 (昭和 51) 年	: 米国会社設立
1979 (昭和 54) 年	: 韓国子会社設立
1983 (昭和 58) 年	: 奈良工場(現本社)建設
1989 (平成 元) 年	: GMBに社名変更
1996 (平成 8) 年	: 中国子会社(青島GMB)設立
2001 (平成 13) 年	: タイ子会社設立
2003 (平成 15) 年	: ISO9001認証取得
2004 (平成 16) 年	: 大証二部上場
2006 (平成 18) 年	: 中国子会社(即墨GMB)設立
2009 (平成 21) 年	: タイ関連会社(TKG)設立
2012 (平成 24) 年	: 韓国子会社が韓国証券取引所上場
2013 (平成 25) 年	: 中国子会社(杭州GMB)設立
2013 (平成 25) 年	: 韓国子会社(AG TECH)設立
2013 (平成 25) 年	: 中国子会社(南通GMB)設立



GMBの主要取扱製品

駆動・伝達・操縦装置用部品：売上構成比 56%

⊕ユニバーサルジョイント ⊕ステアリングジョイント



⊕バルブスプール



⊕サスペンション部品



注) 構成比は
2014/3月期

エンジン部品：売上構成比 23%

⊕ファンクラッチ ⊕ウォーターポンプ



ベアリング他：売上構成比 21%

⊕テンショナー&アイドラー・産業用

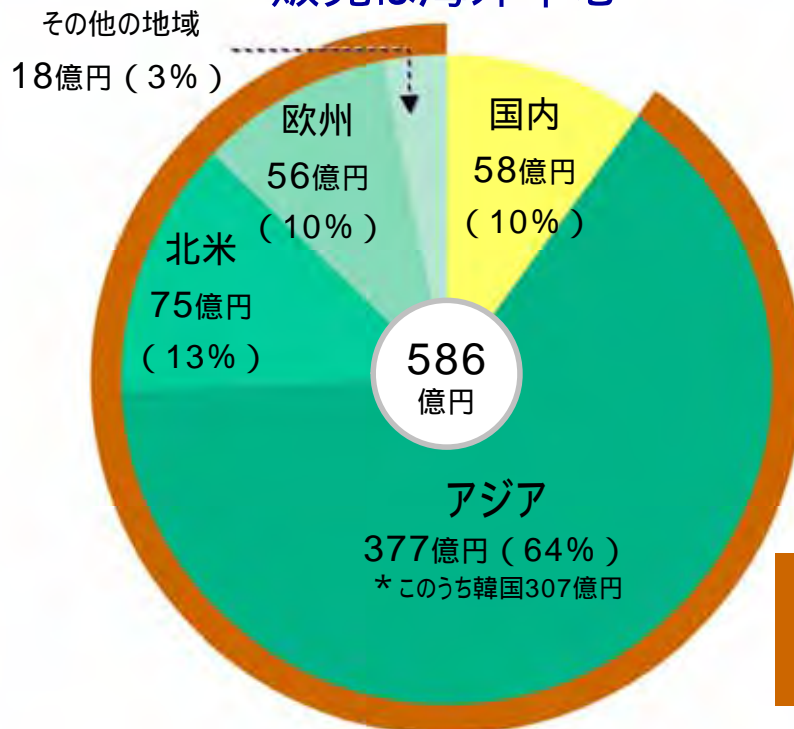


-4-



生産・販売ともにグローバルに展開

販売は海外中心



海外売上高

90%

(注) 2014/3期連結ベース、括弧内は構成比

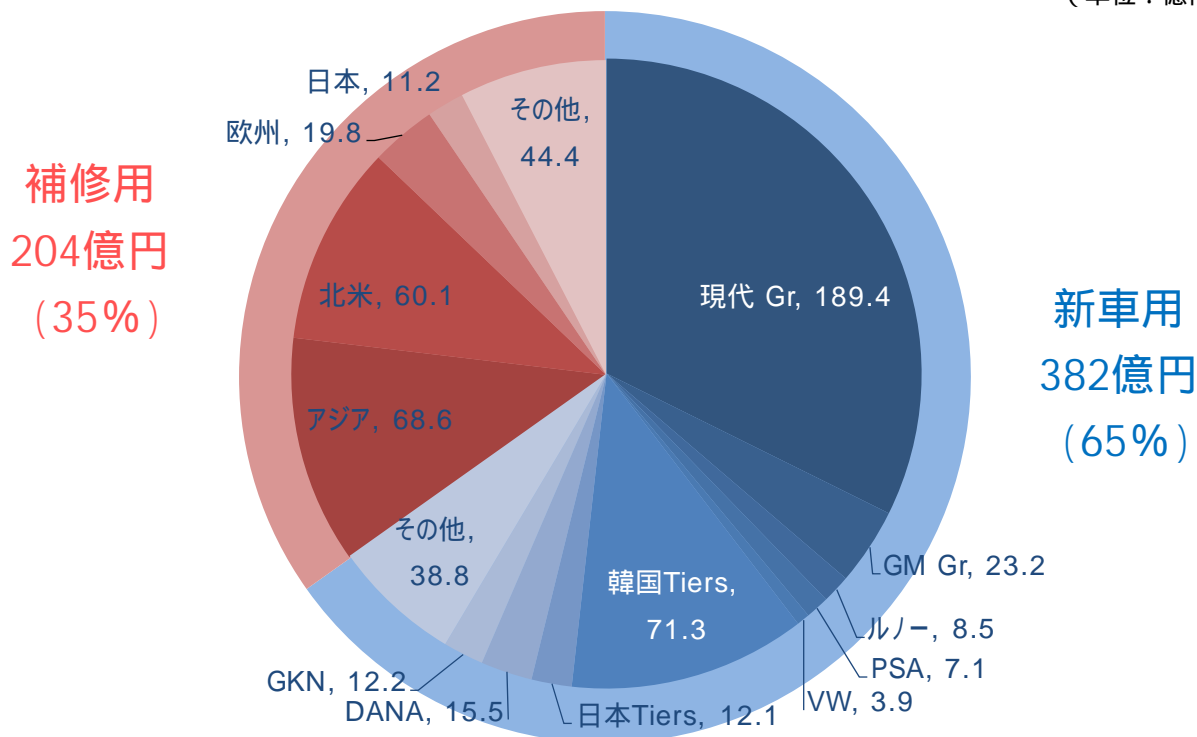
-5-



生産・販売ともにグローバルに展開

OE M相手先 & 補修用地域別売上構成

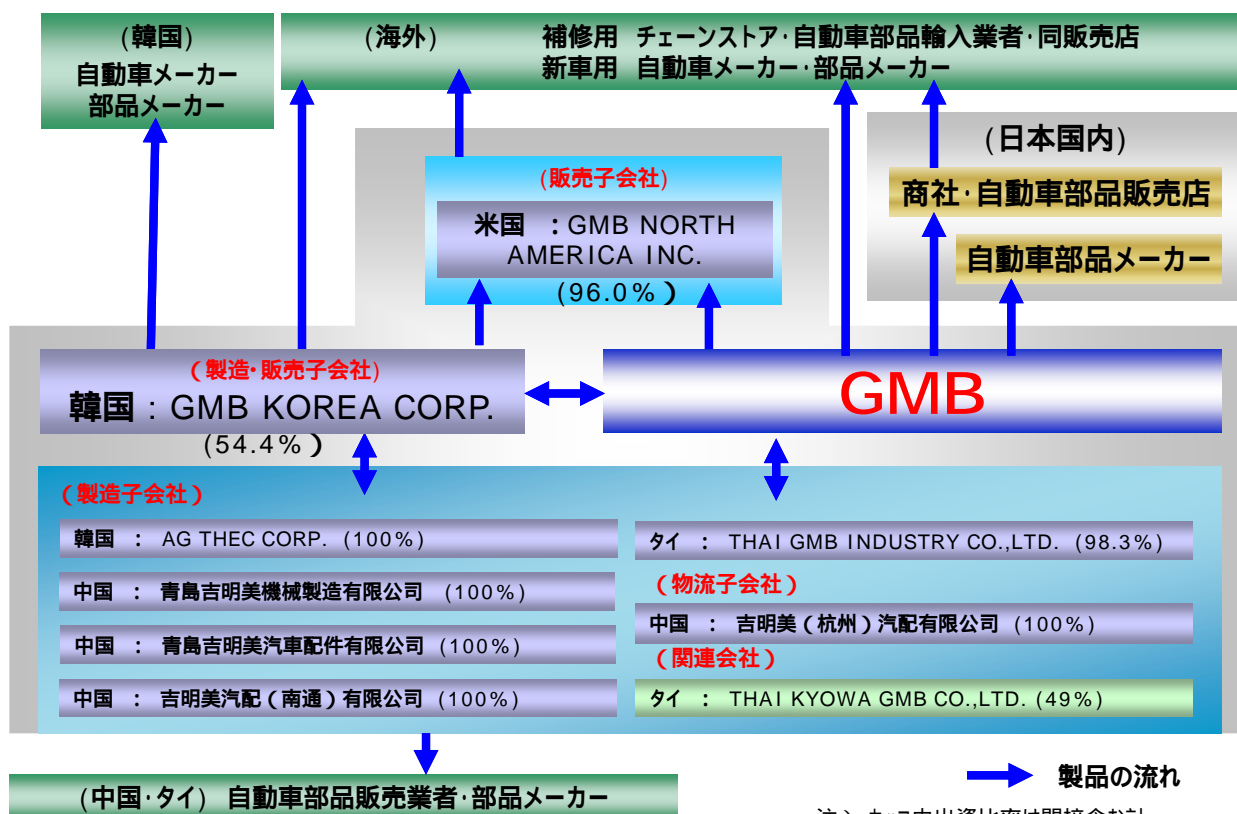
(単位：億円)



(注) 2014/3期連結ベース



生産・販売ともにグローバルに展開



注) カッコ内出資比率は間接含む



特徴 海外補修用市場でブランド確立

海外市場

年間走行距離も長く、クルマは壊れることが当たり前
 簡単な部品交換はDIY（自分で修理する）ユーザーも少なくない
 道路や水質など使用環境の苛酷な途上国では交換需要はさらに増加
 日本車は完成車メーカーの海外展開と中古車輸出で増加



いち早く海外市場へ目を向け市場を開拓・ブランド確立



海外顧客向け弊社"News Letter"

【参考】 補修用部品の交換需要関連データ

	乗用車 保有台数 (万台)	年平均 走行距離 (km)	車齢10年 を超える 保有数	平均車齢 (年)
日本	4,206	9,896	13%	5.84
米国	18,319	18,870	40%	8.30
フランス	2,748	14,100	30%	7.50

2002年3月JATOI 対日アクセス実態調査報告書（補修用自動車部品）より



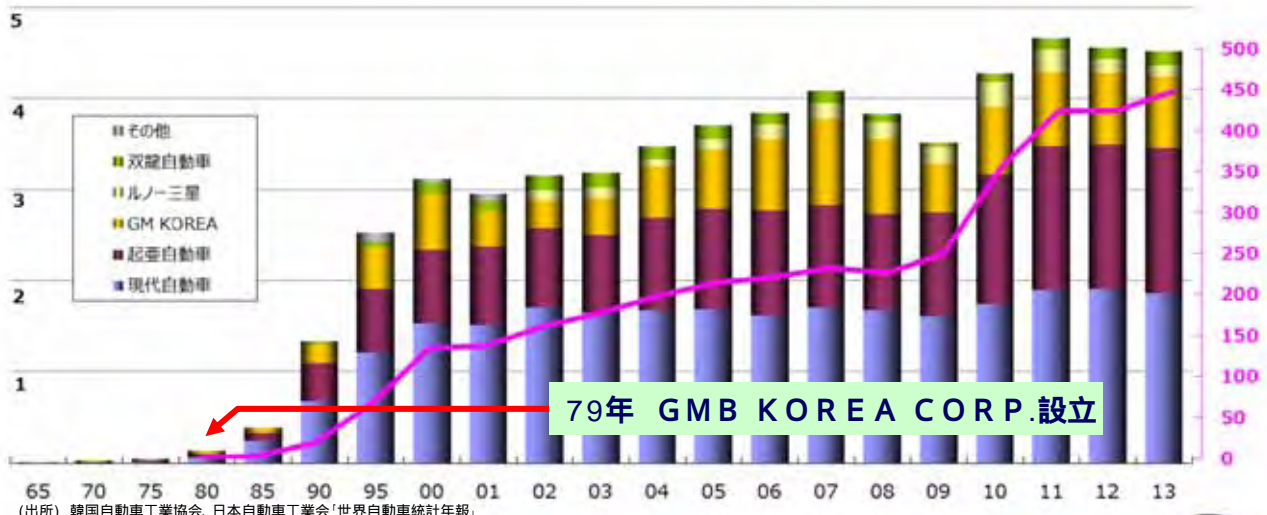
特徴 現代・起亜自動車とのつながり

- 韓国自動車黎明期の1979年に進出し国産化に貢献
- 現代自動車グループへの売上高比率34%（14年3月期）
- 韓国車は米国・新興国を中心に海外市場で販売好調

(単位：百万台)

韓国自動車生産台数（棒グラフ）と GMB KOREA CORP. の売上高（折れ線グラフ）の推移

(単位：10億W)



(出所) 韓国自動車工業協会、日本自動車工業会「世界自動車統計年報」

